

# 広島県立広島叡智学園中学校

入試科目	適性検査 A	適性検査 B
試験時間	45分	45分
配点	100点	100点

□第1次選抜

◎適性検査 A…資料から情報を読み取り、条件等に従って筋道を立てて考え推論する。

◎適性検査 B…資料を多面的に解釈し、経験や知識と結び付けて発想するとともに、複数の資料を比較・分類し、関連付けて考察する。

◎第1次選抜の合格者は適性検査及び面接の結果並びに出願書類を総合的に判断して決定。

□第2次選抜

◎第2次選抜の合格者は、2泊3日の共同生活でのグループワーク、面接及び共同生活の振り返りを総合的に判断して決定。

## 適性検査 A

- 1 与えられた情報から条件に合うようインタビューする人数、移動の順序や時間、帰宅時間の計画を立てる問題
- 2 昼食の献立について条件を満たしていない項目を説明し、条件に合うよう献立を変更する問題

広島叡智学園中学校の適性検査も他の公立中高一貫校と同様、課題を発見し解決する過程を多様な方法で表現させる内容でした。新設校で初めての入試となりましたが、県立広島中学校の出題形式に準ずるところがあり、対策は同様に行えるといえるでしょう。

出題内容は次のようになっています。

1 観光地を巡り、観光客にインタビューして帰宅する計画を立てます。移動手段と所要時間の図、電車の時刻表、バスの時刻表が情報として与えられ、計画を立てるための条件が7項目あり、解答用紙への記入方法の指示が5項目ありました。9時に家を出ますが城と美術館でインタビューを行うことができるのは10時からでしたので

自ずと経路は絞られます。ただ、どの観光地で何人にインタビューするか、休憩はどの駅でとるか、電車やバスの発車時刻に間に合うよう駅に2分前には到着するなど多くの条件を複雑に併せ考える必要があります、受検生を混乱させた問題でした。絞り込めることから少しずつ決めていき丁寧に解くことが要求される問題でした。

2 昼食の献立に関する武志さんと美咲さんの会話文があり、ここから2問出題されました。会話文の他に主食やおかず、汁物についてまとめた表、献立を決めるときの条件が3つ、食品の量と値段の表が与えられていました。1問目は武志さんが考えた献立について3つの条件を満たしているか満たしていないかの説明が求められ、2

問目は武志さんが考えた献立の一部を変更した献立の提案とその献立が3つの条件を全て満たしていることの説明が求められました。いずれも解答欄が大きく、3つの条件についてもれなく丁寧に説明することが必要でした。

適性検査問題では資料から情報を読み取ること、条件に従って筋道を立てて考えたり、推論することができること、またその過程を適切に表現することが求められますので読解力や判断力、説明能力は欠かせません。誤字脱字は減点されるものと考え、字は普段から正確に丁寧に書くよう心がけましょう。

45分で2題しか与えられませんので、解き始めてうまくいかない

場合も、あきらめず取り組むことや試行錯誤を重ねられる姿勢を身につけておきたいところです。

普段から読み書きや計算の能力を高め、技能を磨き、素早く判断し、要点を押さえ、短く、順序よく表現する能力を鍛えておくことが重要です。また、単純な問題ばかりでなく、書き出しが必要な問題や試行錯誤が必要なじっくり取り組む問題にも早くから触れ、解ききる精神力を養う必要があります。

適性検査の問題は、まとめ方や時間配分を考えた練習の積み重ねが、合否を大きく左右します。模試などを積極的に利用し、制限時間内で臨機応変に答案を仕上げる力を養っておきましょう。

## 適性検査B

- 1 「虫食<sup>は</sup>む人々の暮らし」について書かれた文章を読んで、筆者の主張と自分の考えをまとめる問題
- 2 「よりよい町づくり」というテーマで、A町の課題とその解決策を提案し文章にまとめる問題

2019年（平成31年）に開校する叡智学園の適性検査Bです。初めての入試ということで、どのような問題が出題されるか注目されました。基本構成は以下のようになっています。

- 1 与えられた文章を読み、筆者の主張と自分の考えを述べる（300字～400字以内）
- 2 資料データを用いた発表原稿を作る（25行 文字数指定なし）

出題傾向は基本的には、県立広島と同様のものでした。今後このスタイルを踏襲するものと予想されます。

出題内容は、次のようになっています。

- 1 与えられた1000字程度の文章を読んだ上で答える問題。初年度となる今年は、地理学者である野中健一氏のエッセイ「虫食<sup>は</sup>む人々

の暮らし」の一部が出題されました。「虫を食べる」という行為から、社会や文化を考えるといった内容です。

解答は3つの条件にあった作文が求められています。1つ目は、筆者の主張についてまとめること。2つ目は、筆者の主張に対する自分の考えを具体例をあげて書くこと。3つ目は、300字以上～400字以内にまとめて書くことです。

条件の1と2は、県立広島でも出題されている形式です。特筆すべきは、3つ目の条件です。県立広島では、200字を超える作文は求められていませんが、この設問では300字以上400字以内の作文が求められています。この点が大きな相違点となっています。3つの条件すべてを満たすことができるよう練習を積み重ねておきましょう。

- 2 「よりよい町づくり」というテーマで、自分たちが住んでいる

A町の課題をみつけ解決策を提案する問題が出題されました。班での話し合いのまとめと3つの資料をもとにした作文が求められています。資料データから、解決策を書きやすい課題をみつけると良いでしょう。このタイプの問題も県立広島で出題されていますが、求められる文字数が設問 **1** と同様に多くなっています。文字数の指定はなく最大25行となっていますが、600文字程度を目標に書きたいところです（文字のサイズにもよりますが）。

出題の基本スタイルは、県立広島を踏襲した内容となっていますが、設問数が少なくなっている（県立広島は大問3問）ためか、より多くの文字数を要求される内容になっています。合格水準の突破には、400～600文字程度の文章を書き慣れる対策とペース配分の訓練が重要です。誤字脱字は厳禁です。練習を重ねておきましょう。